

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2015年3月期 第1四半期 連結決算概況

2014年8月7日
オリンパス株式会社
取締役専務執行役員
グループ経営統括室長
竹内 康雄

2015年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況

2015年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

◆売上高は前年同期比 5%増、各利益項目は大幅増益

◆当期純利益は第1四半期として過去最高益

(単位：億円)	2014年3月期1Q	2015年3月期1Q	増減額	前年同期比
売上高	1,592	1,670	+78	+5%
販管費 (販管費率)	859 (54.0%)	913 (54.7%)	+54 (+0.7pt)	+6%
営業利益 (営業利益率)	82 (5.1%)	151 (9.0%)	+69 (+3.9pt)	+84%
経常利益 (経常利益率)	24 (1.5%)	112 (6.7%)	+88 (+5.2pt)	+365%
当期純損益 (当期純利益率)	△18 (-)	81 (4.9%)	+100 (-)	-
円/US\$	99円	102円	3円 (円安)	
円/Euro	129円	140円	11円 (円安)	
売上高への影響額	-	+63億円		
営業利益への影響額	-	+39億円		

2015年3月期 第1四半期実績 ②セグメント別概況

- ◆医療事業は売上高・営業利益が第1四半期として過去最高を更新し、全社業績を牽引
- ◆その他事業は、バイオロジクス事業の撤退により黒字化

(単位：億円)

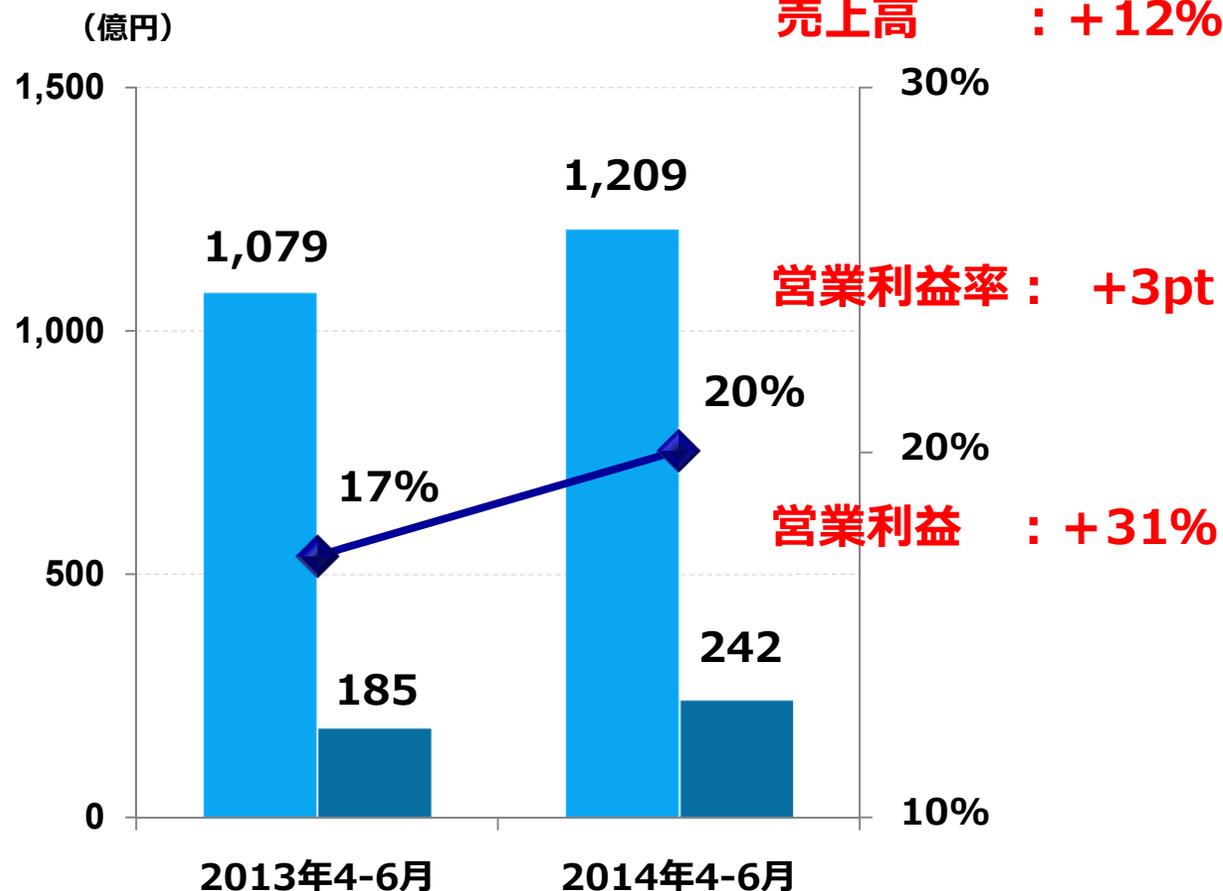
		2014年3月期1Q	2015年3月期1Q	増減額	前年同期比
医療	売上高	1,079	1,209	+130	+12%
	営業利益	185	242	+57	+31%
科学(※)	売上高	199	211	+11	+6%
	営業利益	△10	△3	+7	-
映像	売上高	250	198	△51	△21%
	営業利益	△6	△22	△16	-
その他	売上高	64	52	△12	△19%
	営業利益	△14	3	+17	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△73	△70	+3	-
連結合計	売上高	1,592	1,670	+78	+5%
	営業利益	82	151	+69	+84%

(※) 「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更

1Q (4-6月)

■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率

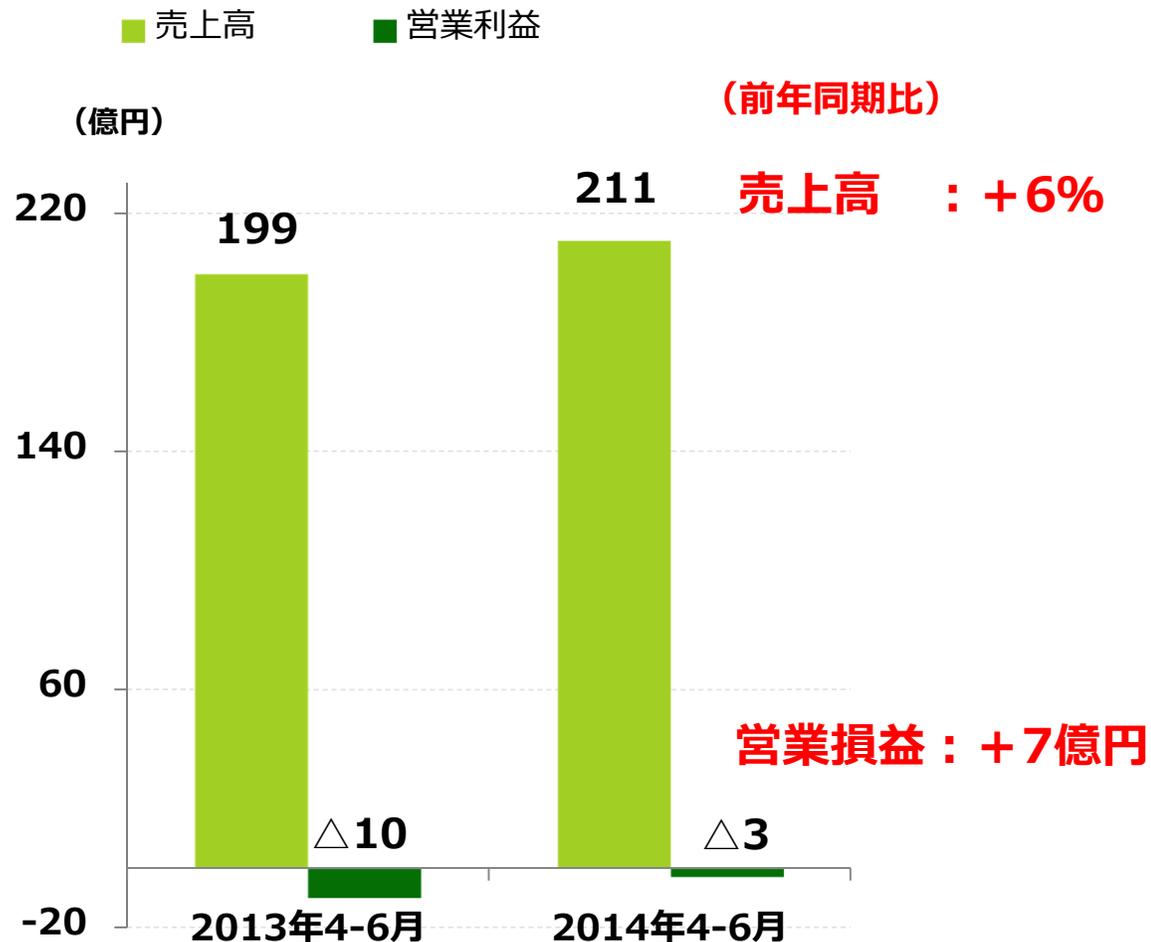
(前年同期比)



トピックス

- ◆ 主力の消化器内視鏡、エネルギーデバイス、処置具等の販売好調により、第1四半期としては過去最高の売上高、営業利益を計上
- ◆ 要員強化 (販売力強化)
 - 主要拠点 (日欧米中) における年間 1,000名の増員目標に対して、約25%の進捗 (うち、セールスは欧米を中心に約150名増)
- ◆ 販売促進費・研究開発費
 - 第2四半期以降に本格投下予定

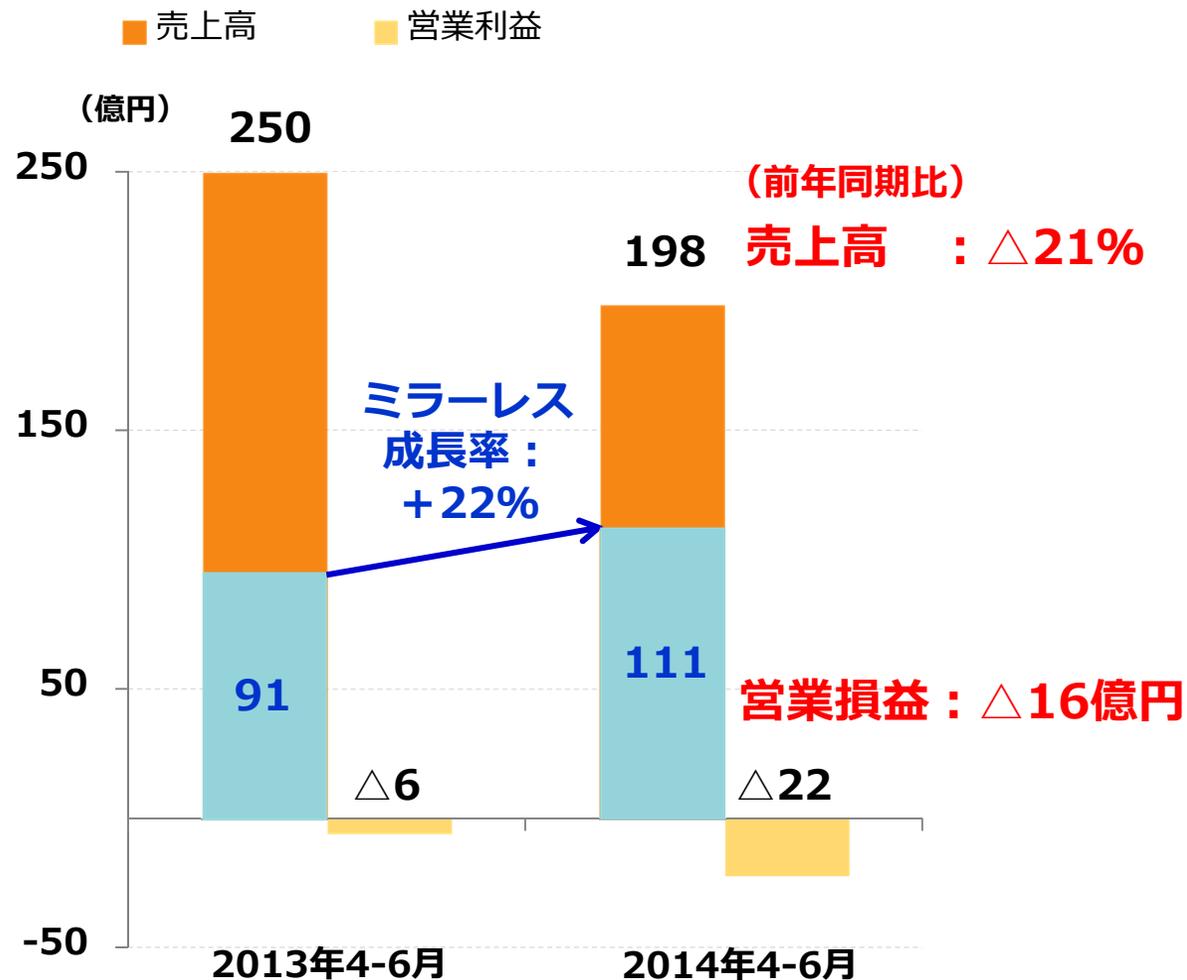
1Q (4-6月)



トピックス

- ◆ 海外を中心に好調な非破壊検査分野、生物顕微鏡分野が牽引し、増収を確保
- ◆ 継続的な原価低減によって、営業損益が改善
- ◆ 顧客群別戦略に合わせた機能統合
 - 米州、アジア地域で、先行的にライフ分野（顕微鏡）、産業分野のセールス機能等を統合

1Q (4-6月)



トピックス

【コンパクト】

- ◆ リスク極小化、高付加価値モデルへの集中で販売台数圧縮（前年同期比78%減の20万台）

【ミラーレス】

- ◆ 前年同期比 22%増収
- ◆ OM-Dシリーズにより欧米市場の販売拡大
欧州：約70%増収、米州：約10%増収
- ◆ 消費税増税の影響による日本市場の減速、PENシリーズの低迷
- ◆ ミラーレスへの販促投資継続

2015年3月期 第1四半期実績 ⑤映像事業- (2)

1Q (4-6月) の前年同期比・差異

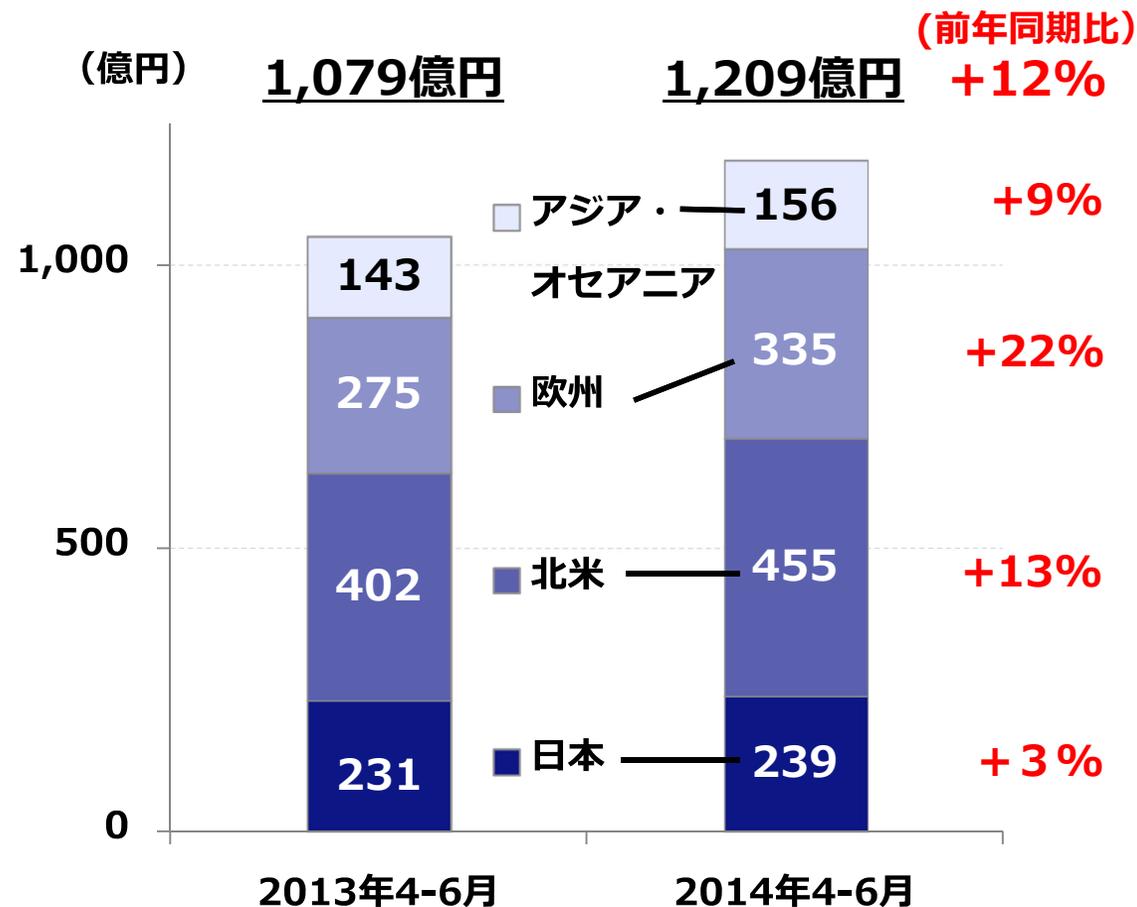
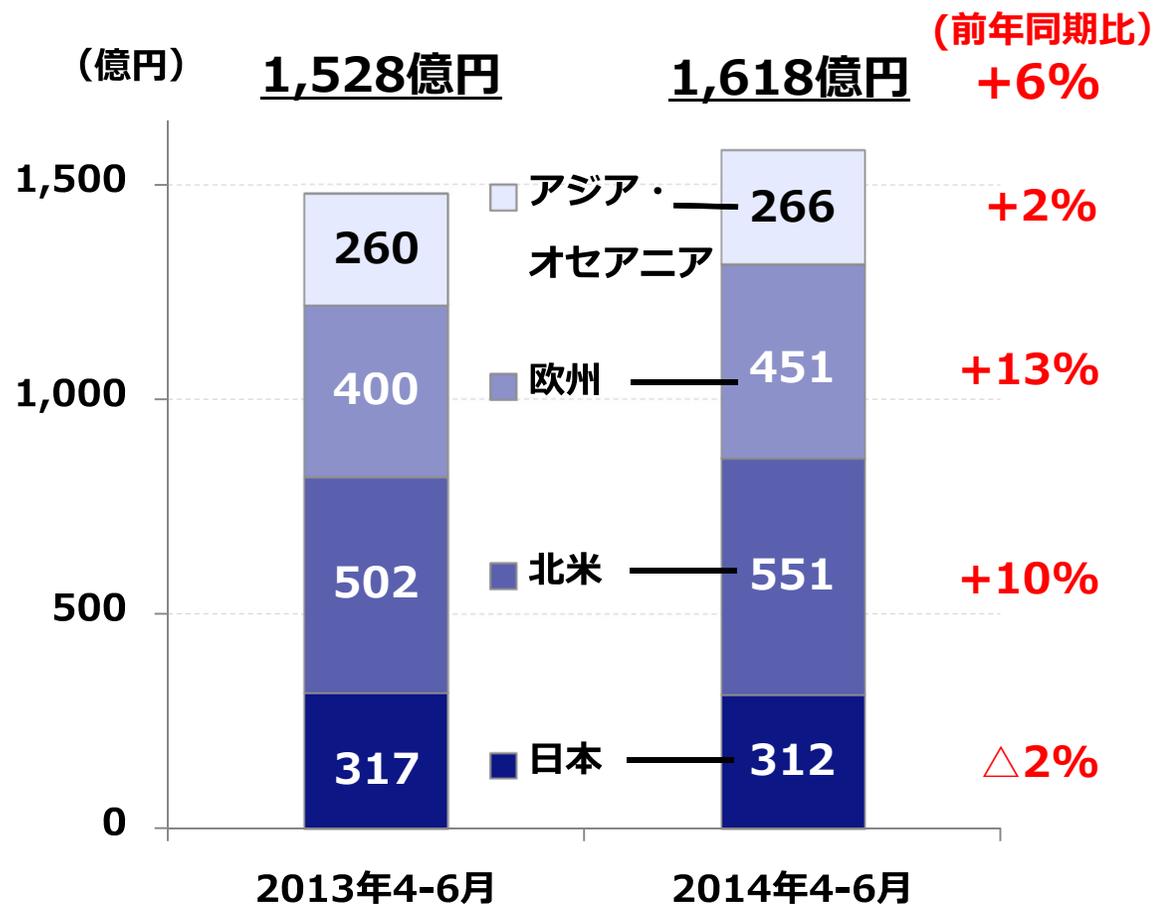
(億円)	2013年 4-6月	2014年 4-6月	増減	
売上高	250	198	△51	売上高減少 コンパクトカメラの販売減をデジタル一眼で補えず、前年同期比減収
デジタル一眼	91	111	+20	
コンパクトカメラ	126	51	△75	
その他	33	37	+4	
売上総利益	116	88	△28	粗利減少
販管費	122	110	△12	販促、B to B投資
営業損益	△6	△22	△16	営業損失増

2015年3月期 第1四半期実績 ⑥地域別売上高

◆ 好調な医療事業が牽引し、日本を除く全地域で増収
 (日本：消費税増税の反動減を受けた映像事業の売上減少)

連結 (4-6月) (※)

医療 (4-6月)



2015年3月期 第1四半期実績 ⑦進捗状況（社内計画比）

医療

売上高

消化器内視鏡を中心に日本、欧州、米国等、全ての地域において計画通りに進捗

営業利益

収益性の高い消化器内視鏡が好調に推移した事に加え、販管費の一部に発生遅れもあり、計画を若干上回る実績

科学 (※)

売上高

消費税増税の反動減により日本で売上高が未達となったものの、産業分野を中心とした新製品効果により、全体では計画に沿った進捗

営業利益

売上高の達成により、計画に沿った進捗

映像

売上高

コンパクトは計画通り。ミラーレスはOM-Dシリーズは好調だったが、PENシリーズが未達、加えて消費税の反動減で想定水準を下回った

営業利益

ミラーレスの売上高が計画未達となり、想定水準を下回った

連結貸借対照表 (2014年6月末)

- ◆ 自己資本比率は 33.0%、有利子負債も早期弁済も含めて 約169億円圧縮
- ◆ ミラーレス拡販に向けた在庫が増加、第2四半期以降の販売によって消化する見込み

(単位：億円)	2014年 3月末	2014年 6月末	増減額		2014年 3月末	2014年 6月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,765 (217)	5,655 (246)	△110 (+29)	流動負債	2,763	2,940	+177
有形固定資産	1,354	1,350	△4	固定負債 (内：社債・長期借入金)	4,199 (3,468)	3,794 (3,103)	△405 (△365)
無形固定資産	1,736	1,670	△65	純資産	3,313	3,340	+27
投資その他資産	1,420	1,399	△21	(自己資本比率)	(32.1%)	(33.0%)	(+0.9pt)
資産合計	10,275	10,075	△200	負債 純資産 合計	10,275	10,075	△200

有利子負債 : 3,990億円 (2014年3月末比 △ 169億円)
 純有利子負債 : 1,530億円 (2014年3月末比 △ 107億円)

連結キャッシュフロー計算書（2014年4月～2014年6月）

(単位：億円)		2014年3月期1Q	2015年3月期1Q	増減
売上高		1,592	1,670	+78
営業利益		82	151	+69
(%)		5.1%	9.0%	+3.9pt
営業CF		115	210	+95
投資CF		△65	△83	△18
財務CF		△937	△170	+767
キャッシュフロー		△887	△43	+844
フリーキャッシュフロー		50	127	+77
現金及び現金同等物期末残高		1,424	2,455	+1,031
減価償却費		87	90	+4
のれん償却額		23	23	△0
設備投資額		79	88	+9

2015年3月期 業績見通し

2015年3月期 連結業績見通し

◆ 5月に公表した上期・年間計画に変更なし

◆ 医療事業が牽引する営業利益、及び営業外収支の改善で当期純利益が大幅増益

(単位：億円)	2015年3月期 上期累計	前年同期比	2015年3月期 通期	前年比
売上高	3,600	+8%	7,600	+7%
営業利益 (営業利益率)	350 (9.7%)	+23%	880 (11.6%)	+20%
営業外収支	△100	-	△180	-
経常利益 (経常利益率)	250 (6.9%)	+48%	700 (9.2%)	+38%
当期純損益 (当期純利益率)	130 (3.6%)	-	450 (5.9%)	+230%

2015年3月期 セグメント別業績見通し

- ◆ 好調な医療事業を中心として、ほぼ全分野で増益傾向
- ◆ その他事業は、バイオリジクス事業からの撤退により54億円改善の見込み

(単位：億円)		2015年3月期 上期累計	前年同期比	2015年3月期 通期	前年比
医療	売上高	2,600	+13%	5,400	+10%
	営業利益	520	+6%	1,150	+2%
科学 (※)	売上高	480	+9%	1,040	+6%
	営業利益	0	-	45	△8%
映像	売上高	440	△6%	970	+1%
	営業利益	△30	-	△35	-
その他	売上高	80	△39%	190	△28%
	営業利益	0	-	0	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△140	-	△280	-
連結合計	売上高	3,600	+8%	7,600	+7%
	営業利益	350	+23%	880	+20%

2015年3月期 第2四半期以降の映像事業

◆ 成果の見え始めた欧米市場の拡大

- ・ 第1四半期に好調であったOM-Dシリーズを主軸に販売を拡大

◆ 第1四半期低迷した日本・アジア市場のテコ入れ

- ・ 競争力のあるPENシリーズの新製品投入

◆ プロ用レンズラインナップ強化でレンズビジネス拡大を加速

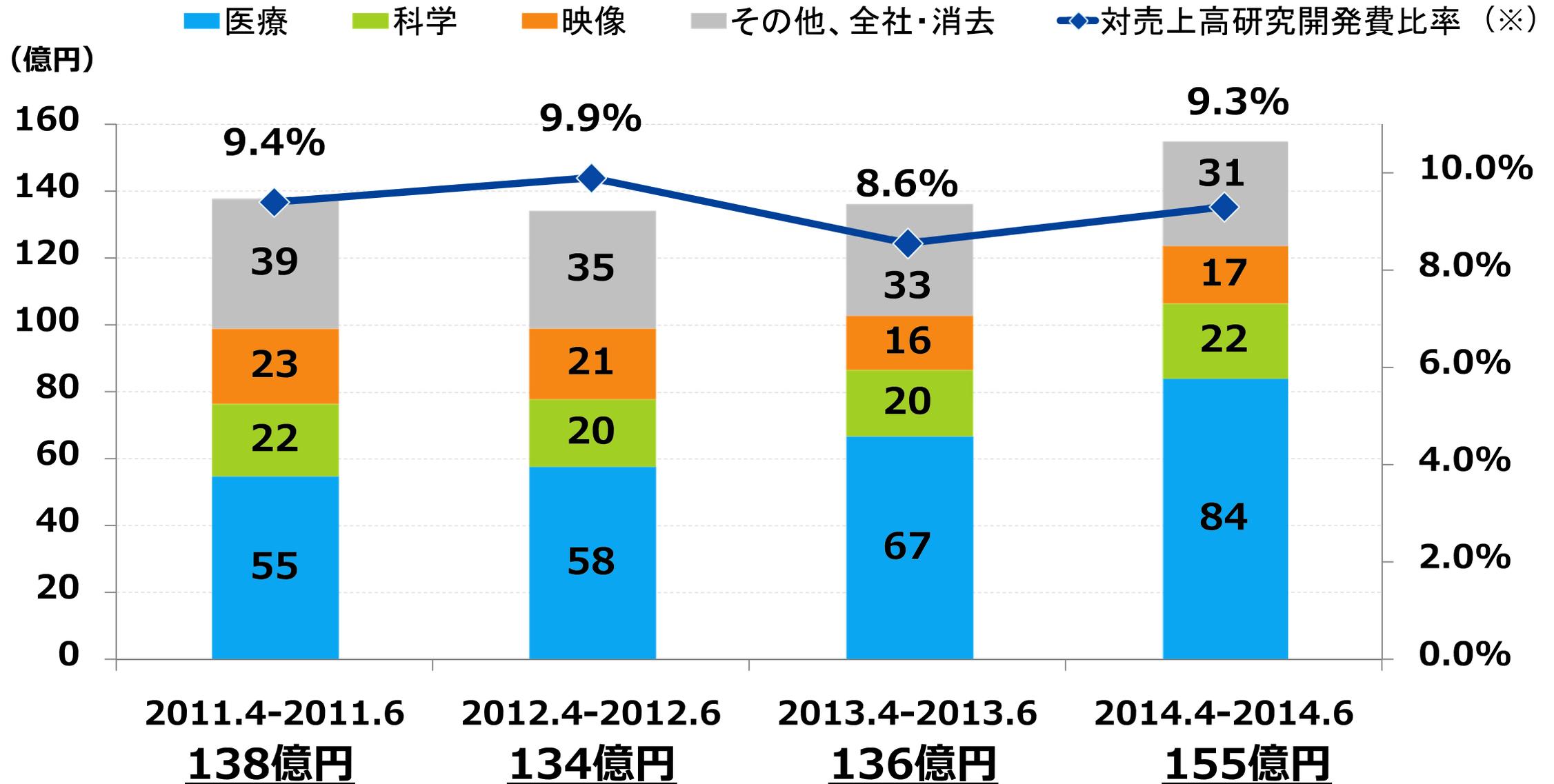
- ・ 2015年3月期 第1四半期 レンズ売上高 前年同期比 : 約40%増

OM-Dシリーズ	PROレンズ	【2015年度以降、順次発売】
	<p>M.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PRO ※35mm判換算 24-80mm (2013年11月29日発売)</p>  <p>M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F2.8 PRO ※35mm判換算 80-300mm (2014年度下期発売予定)</p> 	<p>M.ZUIKO DIGITAL ED</p> <p>① 7-14mm F2.8 PRO ※35mm判換算 14-24mm (広角)</p>  <p>② 300mm F4 PRO ※35mm判換算 600mm (超望遠)</p> 
	<p>広角 12-40mm F2.8 ※35mm判換算 24-80mm</p> <p>40-150mm F2.8 ※35mm判換算 80-300mm</p> <p>望遠</p>	

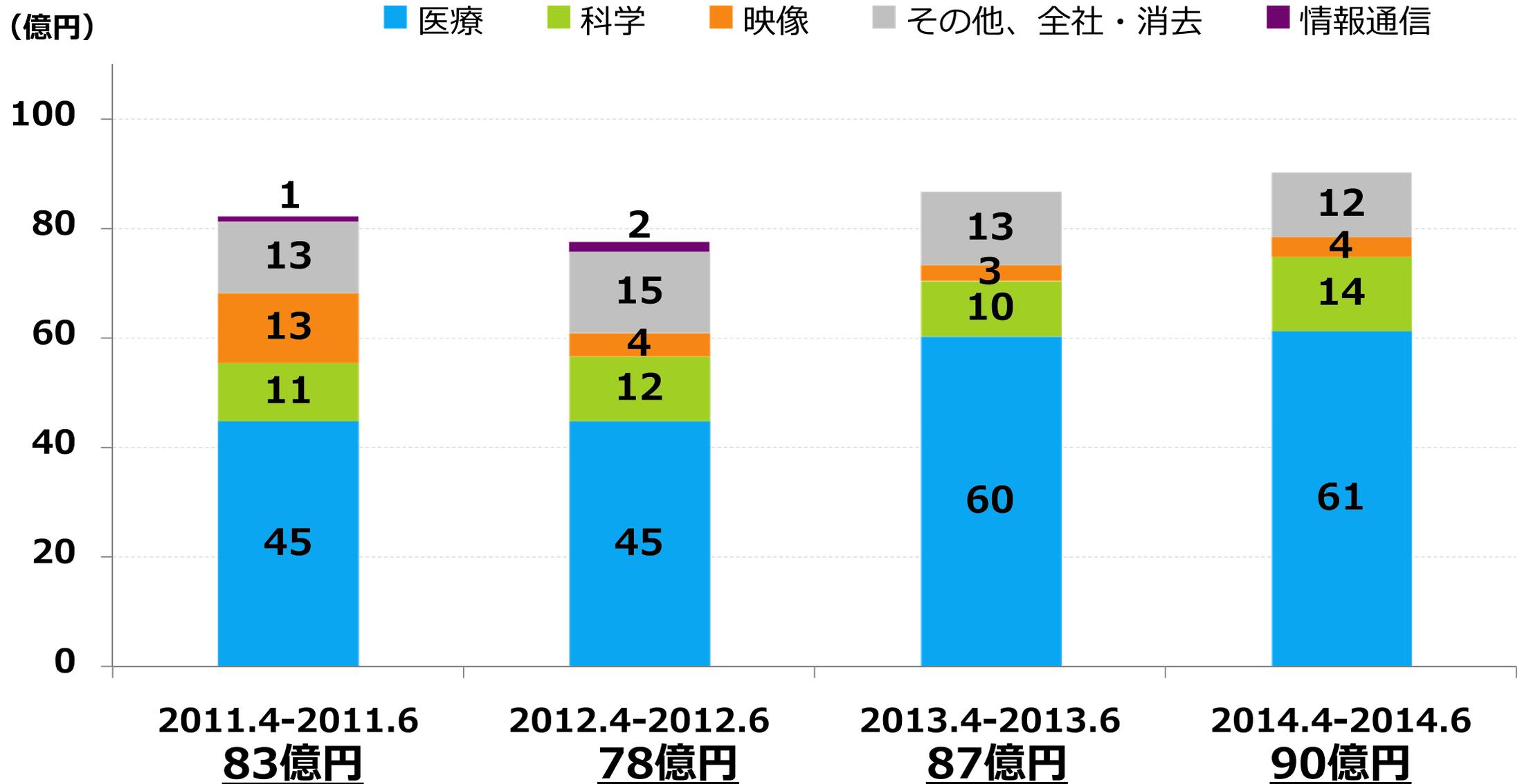
OLYMPUS

參考資料

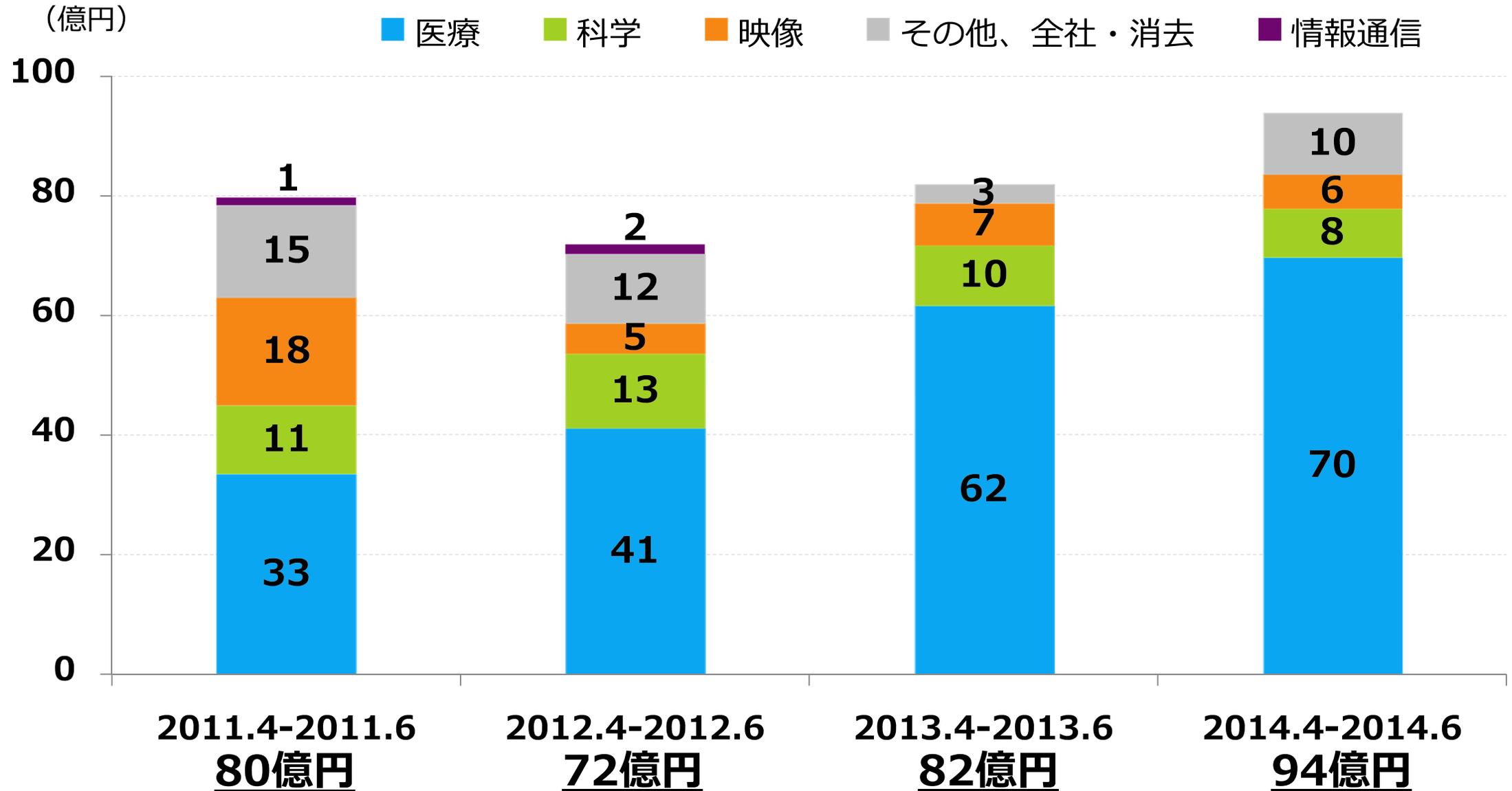
【参考資料】 研究開発費



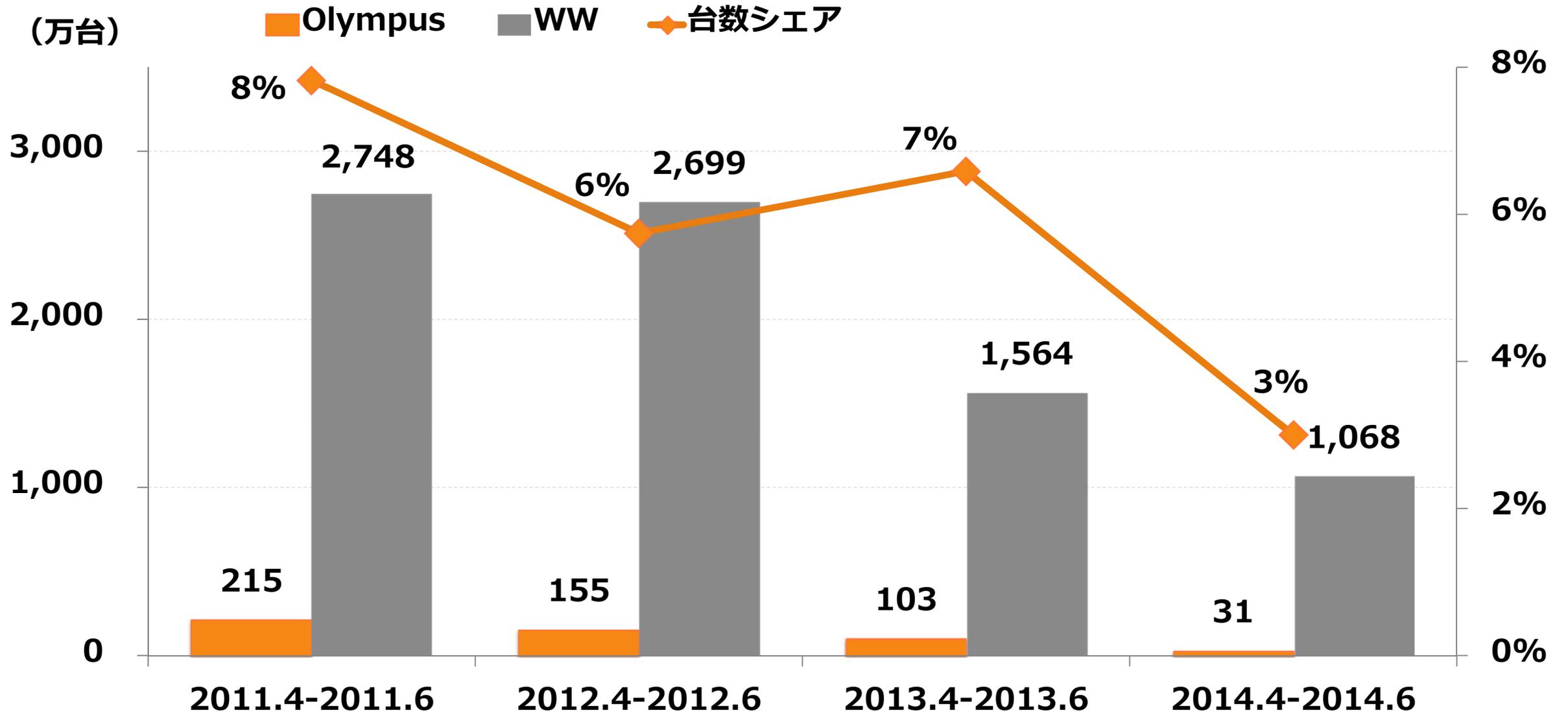
【参考資料】 減価償却費



【参考資料】 設備投資



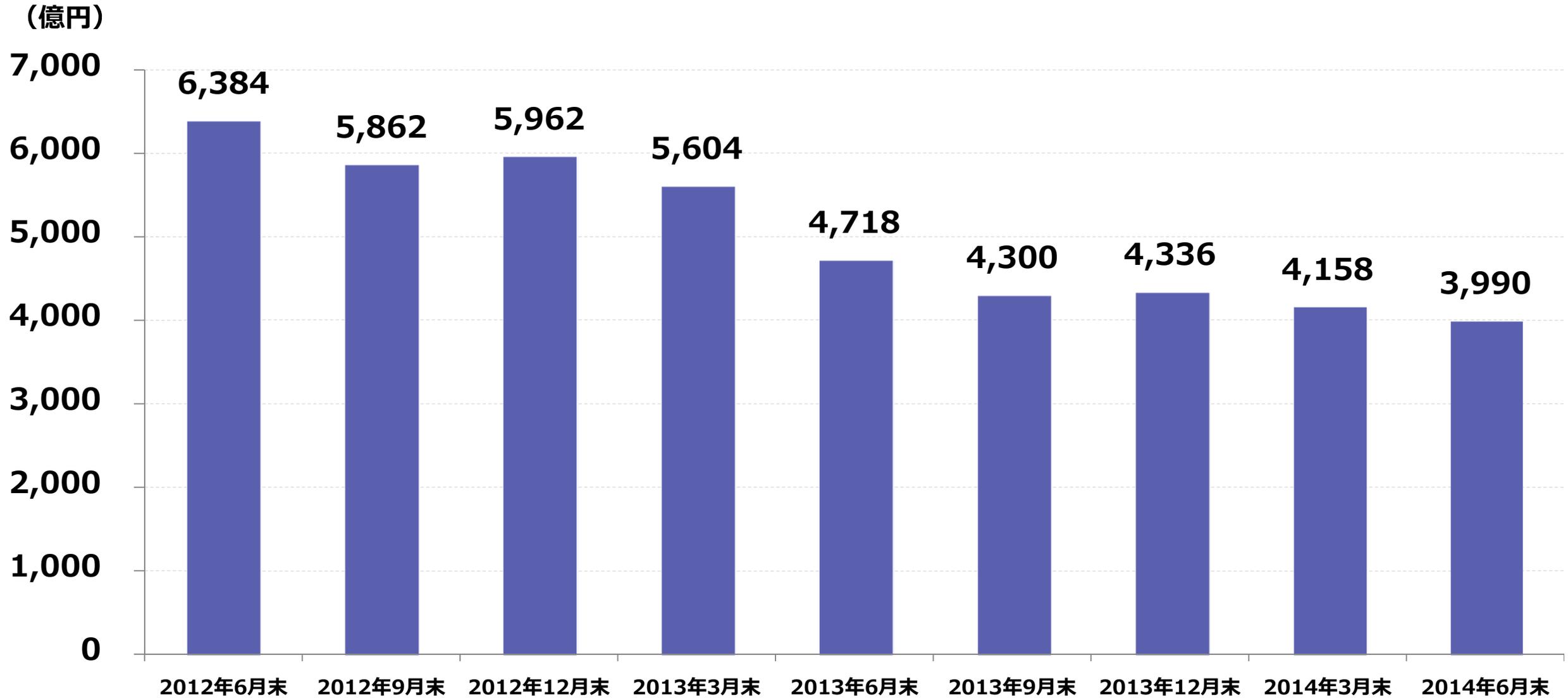
【参考資料】 デジタルカメラ



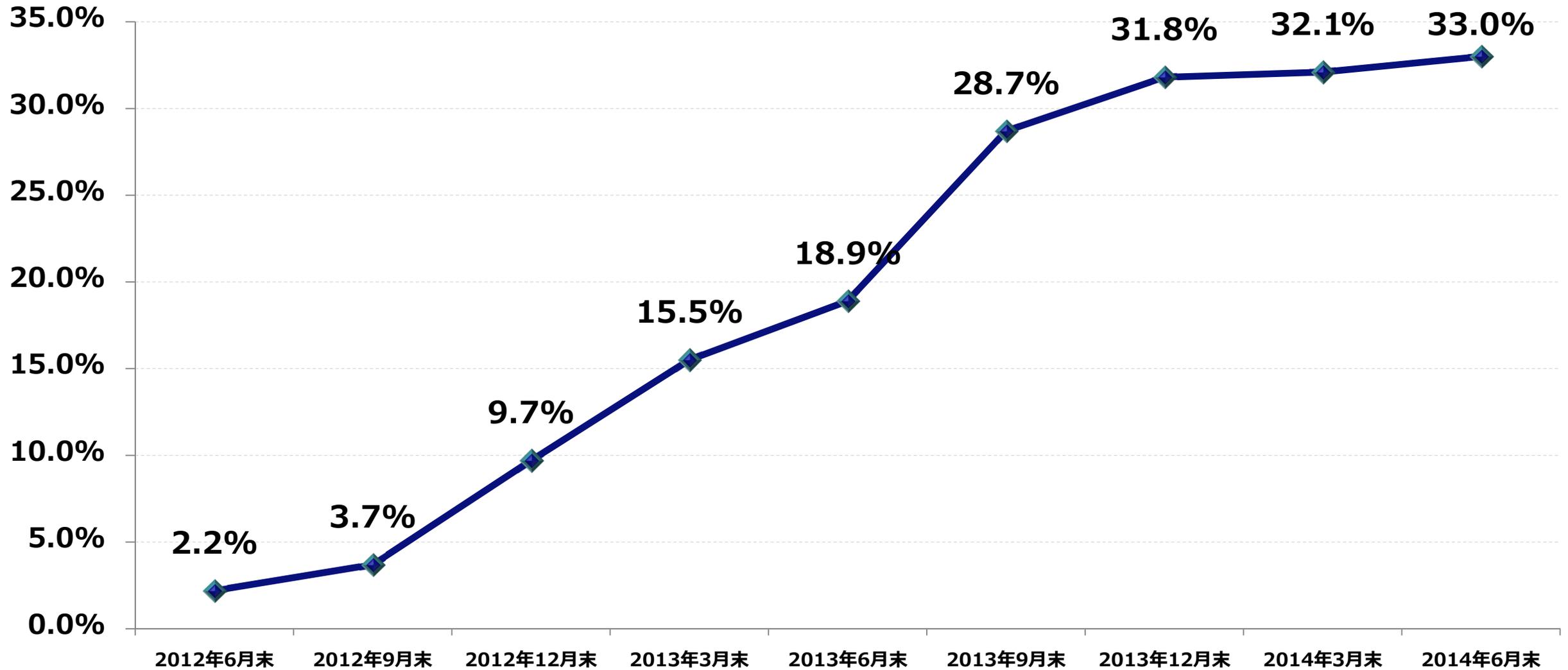
【参考資料】 中期経営計画 セグメント別業績目標

		2015年3月期 (目標値変更無し)	2017年3月期
売上高	医療	5,400億円	6,500億円
	科学	1,040億円	1,350億円
	映像	970億円	1,000億円
	その他	190億円	350億円
	合計	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,150億円	1,500億円
	科学	45億円	150億円
	映像	△35億円	90億円
	その他	0億円	10億円
	全社・消去	△280億円	△320億円
	合計	880億円	1,430億円

【参考資料】 有利子負債



【参考資料】 自己資本比率



OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。